

令和4年1月

# 多田陽一郎 学位論文審査要旨

主査 磯本 一  
副主査 梅北 善久  
同 藤原 義之

## 主論文

Infiltration of CD204-overexpressing macrophages contributes to the progression of stage II and III colorectal cancer

(CD204を過剰に発現したマクロファージの浸潤はステージIIとIIIの大腸癌の進行に寄与する)

(著者：多田陽一郎、杢見吉朗、原和志、宮内亘、菅澤健、植嶋千尋、谷尾彬充、木原恭一、山本学、高野周一、坂本照尚、中山祐二、長谷川利路、藤原義之)

令和3年 Anticancer Research 41巻 4857頁～4865頁

## 参考論文

1. Disinfection with single or double usage of new antiseptic olanexidine gluconate in general surgery: a randomized study

(一般外科手術における新規感染予防薬オラネキシジングルコン酸塩の単回使用または2回使用による消毒：無作為化試験)

(著者：山本学、原和志、菅澤健、植嶋千尋、谷尾彬充、多田陽一郎、宍戸裕二、宮谷幸造、花木武彦、木原恭一、松永知之、徳安成郎、高野周一、坂本照尚、本城総一郎、藤原義之)

平成30年 Langenbeck's archives of surgery 405巻 1183頁～1189頁

## 審査結果の要旨

本研究は、癌の浸潤・転移を増殖させる因子として知られているM2マクロファージのマーカーであるCD204の発現と予後との関連性の検討を大腸癌において示したものである。高発現と低発現に分け、高発現であった場合、無再発生存期間と全生存期間が短くなることがログランク検定で示された。また、Cox多変量解析ではCD204の高発現が無再発生存期間と全生存期間短縮の独立した要因であることが示された。さらに、M2マクロファージを大腸癌細胞株と共培養したところ、増殖能と浸潤能を促進させることが示唆された。本論文の内容は、M2マクロファージのマーカーであるCD204が高発現であることは大腸癌患者の独立した予後不良因子であり、CD204を高発現するM2マクロファージは大腸癌の増殖能と浸潤能を促進させる可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。